

# Withコロナ時代における 「国民との科学・技術対話」活動支援

勝手に コアタイム!  
9月15日(水) (大会2日目)  
12:45-13:30  
に説明します!  
(Zoomに集合 →)



藤田弥世<sup>○</sup> ([fujita@kura.Kyoto-u.ac.jp](mailto:fujita@kura.Kyoto-u.ac.jp)), 渡邊吉康, 白井哲哉, 大西将徳  
(京都大学 学術研究支援室)

2008年内閣府より“「国民との科学・技術対話」の推進について”が交付されたことを受け、研究者への新たな負担軽減のための支援と、研究を巡る対話に向けた本質を追求すべく、京都大学では2011年、「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ(以下:対話WG)が始動。KURAが研究者に対し本質的な対話を促しながら、「成果活用促進」「異分野連携融合」「研究マネジメント」を行うべく誕生したのがー

## 「京都大学アカデミックデイ」



### これまでのアカデミックデイ

「研究者と立ち話」

「お茶を片手に座談会」

「参加研究者の交流会」

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」



### アカデミックデイ2020

「オンラインでも膝詰め対話」



コロナ禍で  
できることを...

コロナ禍の中で、研究推進を見据えた「国民との科学・技術対話」活動を支援するにはどうすれば良いか。この問題に立ち向かうため、WG, URA, そして職員という3つの異なる立場を超えた議論を重ねました。コンセプトは「オンラインでも、対話は止めません」。

- <企画内容>
- ・対話の場の構想～当日：担当URAが伴走
  - ・2つの参加方法
    - ー対話参加者：研究者と直接対話
    - ーリスナー：対話の様子を視聴

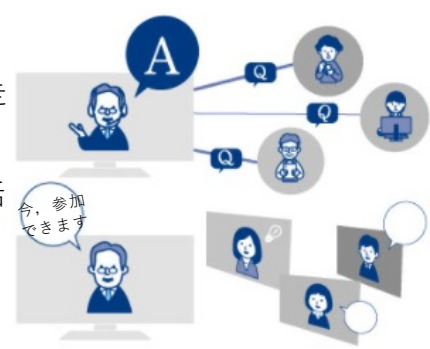
- <アンケート結果>
- ・普段は入ることができない研究現場の配信や遠方の人が気軽に参加できる良さ
  - ・満足度：対話参加者 > リスナー
    - ー「聞いている人がいる」プレッシャー



### 11年目となる今年は、「アカデミックデイズ2021」

- <企画内容>
- ・オンラインでもお茶を片手に座談会の再開
    - ーこれまでのアカデミックデイを再現
    - ー研究者、市民、そしてURAが再現された現地で「対話」の本質を語り合う

- <企画内容>
- ・対話の場の構想～当日：担当URAが伴走
  - ・二部制形式
    - ー第一部：全員がリスナーとして視聴
    - ー第二部：対話参加者のみ研究者と対話



2022年度、オンライン/オンサイトハイブリット開催へー